

八戸地域漁業復興プロジェクト

青森県八戸市

事業実施者：青森県旋網漁業協同組合

使用船舶名：第八十八惣寶丸

支援期間：平成26年10月1日～平成29年9月30日

(大中型まき網漁業)

(取組の内容)

- 高付加価値化：運搬船に活魚/鮮魚/凍結魚の3種類の漁艙を装備した次世代型運搬船を導入した。
- 居住環境の改善：新ILO基準に準拠した居住環境を整備し、労働環境改善と乗組員の安全を確保。
乗組員の不測の事態に対応するためAEDを設置。
- 資源管理の推進：漁艙容積の削減(15%)、従来の漁艙容積506 m³から430 m³へ縮減した。
- 船凍製品の開発：運搬船にブライン凍結庫を新設し、カツオ等の船凍製品の開発を行う。
ブライン凍結庫を使った、サバ、ブリ等の高付加価値製品の開発を行う。



(事業の成果)

- 運搬船に新たに設置したブライン凍結庫を使用した冷凍品の開発(カツオ、サバ等)において、市場における評価は高評価であった。
サバ資源管理の成果により水揚が増加し、償却前利益は**1年目 187百万円**、**2年目 399百万円**、**3年目 540百万円**と計画を上回った。
- 活魚艙によるサバ、ブリ等の活魚の水揚げについては、漁場が遠方だったこと、サイズが小さかったこと等に起因し皆無であった。
また、近年のカツオの不漁により生鮮カツオの価格上昇と漁場が比較的近海に形成されたこと等により、生鮮品を主体に水揚げしたことから運搬船による凍結品の水揚げは計画を大きく下回る結果となった。